

「あいち国文」第十五号をお届けいたします。

◦世界を席卷したコロナ禍は、本号の編集にも波及し、大幅な遅れと、内容に変化をもたらしました。◦と、前号の編集後記は、書き始めています。そして、残念ながら、今号もまた同じ状態にあります。新型コロナウイルスの感染拡大は収まるどころか、オミクロン株などという新たな変異株が猛威を振るいそうな気配でさえあるようです。

「あいち国文の会」も、昨年度開催できたのは三回という結果に終わったことは、八九ページの報告の通りです。編集会議を行うにも、制限が多く、進行も遅れがちとなりました。

そんな環境の中でも、若い人たちが投稿してくださり、研究者の方々から玉稿を賜りましたことは、大変有難く、私どもの励みになりました。誰も彼もが、これまでの生活習慣の変更を余儀なくされ、仕事にも困難が生じました。そんな状況下、多忙な日々にもかかわらず、原稿の執筆、査読・校正等に努めて頂きましたおかげで、本誌発行が叶いました。パンデミックの日常の中だからこそ、文字の力・言葉の力、そして文学の力を信じたいと思います。次号への多くの方々の投稿をお待ちしております。

(杉浦邦子)

編集委員 (〇印は委員長)

浅井圭子 片山武 加藤彩 狩野一三 熊澤美弓
 小谷成子 小林宗治 杉浦邦子 鈴木喬 都築千枝子
 名倉ミサ子 野崎典子 〇長谷川文子 山口比砂
 山下達治 湯本明子 (世話係) 洲脇武志